

園のおたより



第 8 号

令和 4 年 1 1 月

埼玉大学教育学部附属幼稚園

共に生きる生き物たち

園長 小倉 康

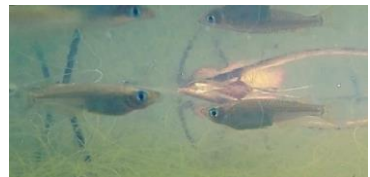
ビオトープを観察していると、様々な生き物が場所と物質を共有しながら生きていることがよく分かります。ビオトープは、えさやりをしないので、水が流れ込むことと落ち葉が飛んでくること以外はほとんど物質が入って来ません。それなのに、今年も数えきれないメダカとヌマエビが生まれて育ちました。植物も、今年は黄色い花のアサザと白い花のオモダカが競い合うようにその領域を拡大し、狭くなった水面にヒメスイレンとホテイアオイが葉を浮かべ花を咲かせました。水中では葉のすき間から日光に照らされたオオカナダモが生長している様子が見られました。そして水中や水面の植物に絡みつくように藻類のアオミドロが群体となって繁殖しました。

流れが無く水深の浅い池ですが、水面に広がった葉は夏場に水温が上がり過ぎるのを防ぐ働きをして、またオオカナダモとアオミドロは光合成をして酸素を発生することで水が酸欠になって腐敗するのを防ぐ働きをしました。こうして水質は良好に保たれ、メダカは元気に泳ぎ廻り産卵を繰り返しました。

メダカやヌマエビは、動物性や植物性のプランクトン、落ち葉などが分解された有機物のかたまり、水面で動く小さな生き物などを食べています。ビオトープで蚊の幼虫のボウフラが見つからないのは、すぐに食べられてしまうためでしょう。アメンボも水面の生き物を捕食します。また生き物の排泄物や死骸なども微生物などによって分解され、植物やプランクトンの養分になります。

このようにビオトープでは、様々な生き物たちが生きるために必要な物質が、分解と生産と消費のつながりによって無駄なく共有されています。他に必要なものは、空気、水、日光だけです。ただしアオミドロのように特定の生き物が増え過ぎた場合は、ある程度人の手で除去してバランスを保つ必要があります。しかしこのような生態系も、ひとたび農薬や合成洗剤が流入してしまうと簡単に破壊されてしまいます。

地球の生き物は共に生きていること、そしてそのしくみを人が壊さないようにしなければならないことを、この小さなビオトープは私たちに教えてくれているのです。



ビオトープの水の中の様子

附属小学校・中学校のこと

先月号のおたよりでは、附属特別支援学校のことを書きましたが、今月は、附属小学校、附属中学校との子ども同士の交流について紹介します。

附属小学校の4年生1クラスと幼稚園の3組、別の1クラスと2組で、それぞれ「交流会」を年に数回行っています。4年生の総合的な学習の時間に位置づく活動で、3クラスある4年生のもう1クラスは、特別支援学校との交流をしているとのこと。この取組は、2000(平成12)年度から始まりました。この2年間は残念ながら中止していましたが、今年度はようやく2学期から再開の準備を小学校の先生方と始め、3組は10月末に、2組は11月初めに1回目を実施しました。2組では、少し年の大きな人と関わることを第一に、場所は馴染んでいる幼稚園で行いました。3組は、人との関わりに加え、新たな場所との関わりも含めるため、小学校に出向く形にしました。12月には、2組、3組とも4年生を幼稚園に迎えて第2回目を行います。4年生は、1回目の会を振り返り、2回目の準備を進める授業があるようです。

附属中学校の家庭科では、保育分野の単元として、幼児とのふれあい体験があります。中学2年生が3学期に幼稚園へ来園し、保育を見学しながら、幼児期について学びます。中学3年生になると、幼児期にはどんな遊びがふさわしいかなどを考え、今度は実際に関わりながら気付きを得ていきます。事前の授業の中では、グループごとに「遊びの内容 計画案」を作成し、晴天用と雨天用の遊びを考えてくれています。中学生なり子どもたちへの思いを感じられる資料になっています。附属中学生を幼稚園に迎えるこの取組は、2017(平成29)年度から始まり、こちらも3年ぶりに11月から再開しました。多くの方にご協力いただき、ありがとうございます。

小学生、中学生それぞれの段階での学び方、感じ方があるようですが、幼稚園の子どもたちにとっても大人や年の近い人と関わる時とは異なる感じ方があるように思います。教育実習では、大学生と関わる機会もありますが、いろいろな人との関わりがもてることも、大学・教育学部の附属園のよさであると捉えています。また、子ども同士の交流がそれぞれにとって意味をもつものとなるためには、幼稚園と小学校、幼稚園と中学校双方の教員同士の連携も欠かせません。具体的な活動の内容を精査してだけでなく、互いの教育観や子ども観に関わるようなやりとりも生まれています。今後も、4つある附属学校園の中で、子ども同士、教員同士の関わりを大切にしていきたいと思います。

(副園長)

クラスだより



1くみ

「風が気持ちいい」



園内のコブシの葉がはらはらと落ちたり、ハナミズキの葉が赤く色づいたり、この時期ならではの姿が見られています。朝、1組にやってくる子ども達の手には赤や黄色の秋のお土産が大切に握られていたり、登園帽子が素敵に飾られたりしています。今月は自然と関わる1組のエピソードをお届けしたいと思います。

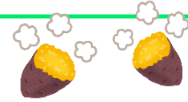
その日は雲一つなく太陽が暖かい日で、1組は多くの子ども達が園庭に出て自分の好きな遊びにじっくりと取り組んでいる姿がありました。テラスに病院ごっここの机をもってきて外に怪我をした人や病気の人はいないか見たり、「いちくみかだん」と名付けて子どもが摘んできた草花や種を植えて世話をしたり、「芽が出た」「大きくなった」と変化に気付いて喜んだりしていました。Aさんが手作りの地図や新聞をもって「園庭を散歩しよう」と言っていたので、Bさんと一緒に1組のテラスから3組奥の切り株まで歩いていくことにしました。やぐらの近くまで来ると、赤白帽子が飛んでいくほどの風が強く吹いてきました。2人を見ると、「わぁ」と声をあげて、嬉しそうな表情で空を見上げている姿があります。2人から、「気持ちいいね」「風がふわあっていくね」とつぶやきが聞こえ、吹き抜ける風を全身で受け止め、心地よさを感じている様子でした。1組の前まで戻ってきた時、また風が強く吹いてきました。今度は、砂場にいたCさん、Dさんが「風が気持ちいいね」「思い切り吹いたね」と話しています。大人の目線では、向かい風の強い風は歩きにくいなど感じるような出来事ですが、全身で受け止めて、この時期ならではの少し冷たい風のよさを体で感じて、その思いを自然とつぶやく子どもの姿がとてもいいなと思う瞬間でした。

木の実や葉っぱなどの目に見える自然物を使うことはもちろん、見えないところでも季節の移ろいを感じながら過ごしているようです。



2くみ

「大きな人との関わり」



食欲の秋と言いますが、秋は美味しいものがたくさんです。3組が春に植えたさつまいもを収穫し、1, 2組にふかしいもを振る舞ってくれました。サプライズで用意して振る舞ってくれたことに、2組の人たちはとても喜び、「チョコレートみたいに甘い!」「今までで一番おいしい!」とよく味わって頂きました。食べ終えてクラスに戻ると、「お礼、言えてない」「お手紙書いたら?」と話し、嬉しかった気持ちを伝えようと早速いろいろと考え始めました。みんなで話し合っ、グループごとにさつまいもを模したお手紙に絵を描くことにしました。自分たちで感謝を伝える言葉も考えながら、一人一人が丁寧に飾り付けをしました。3組に渡しに行く時には、普段見られないようなドキドキした表情で、緊張した気持ちもあったようです。

これまでに子ども会や運動会などの行事はもちろん、普段の生活や遊びの中でもたくさん3組の友達と関わってきました。いろいろなことを教えてもらったり、リズムを一緒に楽しんだりする中で、3組が大好きで、懂れる気持ちにつながっているようです。最近「3組さんになるのが楽しみ」「大根ができたなら1組さんや3組さんにあげたい」と話す姿もあり、懂れが自分たちでもやってみたいという気持ちにつながっています。

今月は附属小学校の4年生との交流会や附属中学校3年生のふれあい体験など、1, 3組以外に歳の違ういろいろな人と関わる機会がありました。それぞれ始まる前からとても楽しみにする様子がありました。小学校4年生との交流では、ペアになって一緒に鬼遊びや新聞ジャンケンをしました。手をつなぎながらじっくり関わってもらったことが嬉しかったようです。お家の人や先生とは違うお兄さんお姉さんとの関わりの中で、のびのびと遊ぶ姿がありました。家庭や園以外にもいろいろな人がいて、自分たちと関わりがあるということを知る貴重な機会になったのではないかと思います。これからもクラス内や園内はもちろん、それ以外のいろいろな人と関わる機会を大切にしていきたいと思っています。

3くみ



「秘密のパーティー」

10月の終わりに、みんなが心待ちにしていたサツマイモ掘りをしました。当日は、「人参みたいなのが取れた」「お芋の赤ちゃん見つけたよ」など、土を掘るたびに顔を出す、様々な形や大きさをしたサツマイモを楽しみながら収穫しました。

収穫が終わると「1組、2組の人にもごちそうしてあげたら喜んでくれるよね」と呟く人がおり、3組のみんなで収穫したサツマイモをどうするか話し合うことにしました。話し合いを始めてすぐに、「たくさんとれたから1組さんと2組さんにも食べさせてあげる」と決まると、他のクラスには気付かれないようカーテンを閉め、小さな声で話し合いが進みます。ポテトチップス、蒸かし芋、焼き芋など食べたい物はたくさん出てきますが、何をごちそうするかがなかなか決まりません。みんなが食べられて、幼稚園で調理できるものは何だろうをみんなで考えていきます。自分たちでは分からないことは用務員さんにも聞きながら、“蒸かし芋”をごちそうすることに決めました。

次はどんなふうにごちそうするか、アイデアを出し合います。昨年度までの3組さんにしてもらったことを思い出しながら、「プレゼントをあげたい」「パーティーみたいにしたらいんじゃない」と素敵なアイデアがたくさん出てきました。プレゼントはみんなに喜んでもらえるよう、紙粘土でいろいろな形のマグネットを作り、会場は賑やかになるように、輪飾り、花飾り、旗飾りを作ることになりました。しかし、パーティーの日付を確認すると準備する時間が少ないことに気が付きました。すると、「3組には6個グループがあるから半分はプレゼントを作って、半分は飾りを作ったらいんじゃない」とのアイデアにみんなが賛成し、翌日からグループごとに準備を始めました。

当日は、室内の飾り付けをしたり、なかよしグループの友達を保育室から案内し、蒸かし芋を運んだり、大忙しの3組さんでしたが「みんな美味しいって言ってくれたよ」と、頑張って準備をしてきたことを喜んでもらったことに、嬉しさを感じているようでした。

1、2組との関わりの中で、自分たちがしてもらったことを次は自分たちもやってあげたいという気持ちが生まれているようです。最後まで自分たちでやり遂げたことが一人一人の自信になっていくよう、やってみたいことの実現を支えていきたいと思います。